

新塑史報

シナイ独立宣言



イスラエル軍事介入 ES政府「衝突懸念」

イスラエル首相府は日曜日声明を発表し「シナイ半島に派遣されたイスラエル国防軍はシナイ国のイスラム過激派を壊滅に追い込んでいく」とした。

国防軍は「シナイ半島に投入された戦車部隊と歩兵部隊は、イスラエルの国土と国民を守るための任務を遂行し、地域の安全のためにシナイ半島の掌握を概ね完了させた」と発表した。首相府は声明で「我々はシナイ半島におけるイスラエルの主権を主張することはないが、同様に我々に対する攻撃を仕掛けるであ

ろう組織を孕む国家の主権も存在しないだろう。イスラエル軍は自国の安全保障のために同地域への駐留を固持する」とし、国防軍のシナイ半島からの撤退を明確に拒否した。

一方、ホワイトハウスでレイモンド・アルフォード(Raymond Alford)大統領が日本の北本誠二(Shigeaki Kitamoto)首相と電話会談し、日本政府からの要請に応じる形で海軍が民間船舶の安全確保のために日本国防軍と共に艦隊をスエズ湾と紅海に展開させると明かした。

ES政府はシナイ半島ではすでにイスラエル軍と遭遇した部隊もあり、衝突の懸念があると報じている。

各紙面より

朝鮮で暴動
暴動は今年2度目。根底には歴史的経緯が…。(3面)

日大淵氏ヌードに
テュルキエの雑誌編集者は大淵前首相のヌード撮影に意欲を示した。(6面)

牛めぐり紛争の危機
「SCA」とある集落同士で紛争の危機。原因は首長の牛の頭数だという…。(8面)

ES対応受け

中華統合軍展開か

外交部、ESの対応批判

満州外交部は、現在ESに駐留している中華統合軍艦隊について展開させる考えを示した。

今回の対応について外交部は、仏政府が派兵することに触れ「帝国主義が復活しようとしている。彼らはスエズを征服しESを植民地として扱

いかねない恐ろしい存在だ」とし、「中華は増派を行うだろう。これは地域の安全と帝国主義の魔の手を追い払うためだ」と強調した。



また同日国営の協和日報は「アフリカの軍事国家として存在していたES王国の地位を完全に失墜させた。今こそ中華はスエズや紅海に独自の安全保障体制を構築し、地域の安定に努めるべきだ」と主張した。

一面コラム

塑像を見る

▼「嘘つきは泥棒の始まり」日本で古くから伝えられていることわざである。今回の中東情勢混乱の因はまさにこれだろう。▼満洲はESとの間に3つに及ぶ条約を締結している。同国の外交部は「これは互いのためになる平等なものだ」としていたが、それが虚構であることが白日の元に晒された。特にスエズ運河に関しては、担保として運河の運営権を事実上握る内容であることなどから、現在ES国内では反政府運動が展開されている。▼満洲の外交部はこの問題に対し沈黙を貫いている。しかし「嘘にも種が要る」とは言うもので、これ以上の沈黙をせずその「タネ」はどう言ったものかを釈明すべきだろう。▼そういう嘘に関することわざにはこう言うのがある。「嘘から出た実」という言葉は嘘が本当になるということだ。是非条約を改定し相互のためになる平等なものを実現して貰いたい。

USCA発 イボガは合法？

【SC大手メディア】アが昨日「【幻覚植物イボガ。違法化すべき?】」と題する記事を掲載した。文中でイボガの効能について「イボガは多くのビジョンをもたらすし、病氣の人を癒し、悪い精神を追いつめ、悪い精神を追い払う。イボガは急進的な精神的成長を促進し、コミユニティと家族の構造を安定させ、宗教的な要件を満たし、病理性の問題を解決する。また狩人は狩猟中に強い覚醒状態を維持するためにイボガを使う。精神を研ぎ澄ましたれた狩人は多くの獲物を村に持ち帰る」とした。

インターネット上ではこれについて「でもイボガは薬物でしょ?」「イボガは牛で買えます」「芥子なら売りますよ」と多くの声が寄せられている。